

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270800370		
法人名	有限会社 やまさき		
事業所名	グループホームひなたぼっこ		
所在地	〒859-4501 長崎県松浦市志佐町浦免206番地		
自己評価作成日	平成29年8月8日	評価結果確定日	平成29年10月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokekka.nsf/aOpen?OpenAgent&JNO=4270800370&SVC=0001096&BJN=00&OC=01
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成29年8月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・ホームの理念に基づき、入居者・家族・職員が共に協力し支え合って一日一日を楽しく安全に過ごして頂けるように取り組んでいる ・平屋でバリアフリーにしており、手すりを多く設置して安全面に配慮している ・提携医療機関との医療連携体制や協力医療機関(内科・歯科)からの医師の往診を実施することで入居者の健康管理に努めている ・スプリンクラーや自動体外式除細動器AED等設備面の充実と共に、消防訓練を行い安心して入居生活を送って頂けるよう取り組んでいる ・研修会を受講したり勉強会を行い、職員の資質向上に努めている ・近隣の中学校・高校の課外活動の受け入れ及び指導に協力させていただいている ・ボランティア等に慰問していただいたり、ドライブや地域の催し物に出かけたり、入居者の皆様にできるだけ楽しい入居生活を送っていただけるように取り組んでいる

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホームの中には人形や置物等が多数飾られている。どこか懐かしい屋内の環境は、入居者にとって安心して生活を営むことのできる空間となっている。このような空間において、入居者同士が1つ屋根の下でお互い家族のような存在で生活している、「会話」「笑い声」「寄り添う姿」が絶えず見受けられた。これは法人理念の実践を追求した姿と換言できる。入居者の生活の場面に目を移してみると、旬の素材を多く活用した手作りのご飯を入居者や職員と一緒に食べている姿は、本来の理想的なグループホームの光景で、まさに家族でテーブルを囲んでいるようであった。また食材の下ごしらえについて、できることは入居者が実施して、可能な限り活動への参加を促していた。このように「できることはできる人が実施する」を生活の中で実践している、下膳や茶碗洗い、そして台拭きなど実際にできることを入居者が実施していた。最後に介護計画書に立案されているサービス内容の実施状況について、「サービス計画実施状況一覧」というタイトルでファイルを作成し、全入居者のサービス提供内容が容易にチェックできる仕組みがあった。必要なサービスを一目で確認することができると同時に、情報の共有を図る上での工夫がなされている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所開設時に経営者と職員が共同で理念を作成したことでその理念を日々のケアに反映しやすく玄関入口や応接間及び事務所内に掲示することで理念の共有をし統一した方針のもとケアにあたっている。	基本方針は「当ホームにおいては、すばらしい自然環境に囲まれ、家庭的であたたかい雰囲気の中、笑顔の絶えない共同生活を楽しんでいただく様、援助を行います」という内容になっている。この文言は代表と開設当時の職員で作ったものである。また文言をわかりやすくかみ砕いた別紙を作成して、地域密着型サービスの意義を加える等、常に理念の言葉を深化させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	移動式理髪車や移動式販売車(パン屋)に定期的に来ていただいたり、地域の催物を見物に出かけている(水軍祭り、文化祭等)	主に地域で古くから行われている、水軍祭りや文化祭等の参加を通じて交流を図っている。また依頼があれば地域団体との交流会の受け入れも行き、比較的開放的なスタンスであった。法人として自治会に加入しているが、今後もっと関わりを深めていくことも検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校、高校の課外活動(職場体験学習、交流会)やボランティア等は積極的に受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に会議を開催しホームから状況報告や今後の方針等について意見交換を行っている 外部委員からの意見やアドバイスをいただきサービスの向上に活かしている	別法人の運営推進会議に参加して見識を広げていることは、特徴的な取組の一つとすることができる。ここで知り得た移動や移乗に関する福祉用具を購入する等役に立っている。また会議に参加している第三者委員からは、消防分団を紹介してもらおう等地域の中の資源確保に役立っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加している行政の担当職員や生活保護の担当職員とは密に連絡を取っており又居宅介護支援事業所等連絡協議会に参加し情報交換を行っている。	運営推進会議で顔を合わせる以外に、概ね年に1回保険者との意見交換会に参加してグループホームの実情を伝えたり、入居者の支援内容等で相談したりしている。また職員は入居者のオムツの申請等公的なサービスも、行政と連絡を取り合いながら代行している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	離設等の事故防止の為状況によっては感知センサーを作動させることがあるが日中は玄関は施錠せず開放している。	入居者が落ち着かない場合に限り、玄関に感知センサーを作動させることはあるが、基本的に施錠等行わずに支援内容を工夫して、身体拘束のないケアを実践している。また外部発信の「BPSDを回避する認知症ケア」を職員は共有して、入居者が穏やかな時間を少しでも長く過ごせるように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	お互いのケアや言葉遣いを確認し合い改善に努めている又入居者の心身の状態把握に努めその意見に耳を傾けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	開設以来利用したことはないが契約時や入居後に必要であれば関係機関に相談するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にホームの概要やケアの方針等について十分に説明を行い理解、納得をしていただき同意を得ている。入居後の変更事項等は書面と面談による説明にて了解をしていただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に目安箱を設置している。家族の面会時に意見や要望がないか尋ねるようにしている。運営推進会議の家族会代表の方からの意見を拝聴している。	意見を抽出する工夫の1つとして、基本的に利用料金の支払いを現金にして、家族がグループホームに足を運ぶ機会を意図的に作っている。また家族からの意見の反映の1例として、入居者の私物を郵送していきる遠方在住の家族がいて、希望に従い使用している。その他もっと離床してほしいという家族からの要望については、1日の日課を説明することで状況を理解され納得されたケースも確認した。	運営に関する利用者、家族等意見の反映の部分で、職員は普段の生活の中で気掛けて入居者や家族の意見を聴くようにしているが、定期的に生活満足度アンケートを取る等して、普段聞き取れない部分を引き出すことを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回スタッフ会を行い意見を出し合いスタッフ間で解決できることは十分に話し合って改善し運営に関する意見や要望は代表者に報告し回答を得ている。	職員からの意見を抽出する機会として、毎月の定期行事と同日に実施しているスタッフ会が挙げられる。職員皆の前で意見を言い難い職員の言葉は、管理者が代弁する等配慮している。意見の反映の1例として、入居者が立ち上がりやすい位置に手すりを設置してほしいという意見が出て、実際に具現化したケースを確認した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も管理者や職員と共に業務に従事しているため個々の勤務状況を把握できており給与水準等に反映している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員の研修を積極的に奨励しており、職員の力量を把握し研修参加のアドバイスを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の居宅連絡協に参加したり他のGHの運営推進会議に参加させていただき会議や勉強会で得た情報を活用しサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前訪問や契約時の面談において十分に説明を行うと共に本人や家族から要望、不安等を聴き支援に反映するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に希望があれば体験利用及び行事への参加受け入れている又入居前の面談や契約時に要望、不安等を聴き、その思いを把握すると共にホームの概要や入居中の支援及び手続き等について十分説明を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談や電話にて本人や家族の要望を聴き、ホームが提供できる支援を説明し必要があれば他の事業者や医療機関を勧めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食材の下ごしらえ、食後の下膳や食器拭き、洗濯物干しや衣類たたみ手伝っていただいている又職員の見守りの下、他の入居者のお世話をいただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	季節の行事等への御家族の参加を依頼すると共に、日々の暮らしの中で入居者本人にとって職員よりも御家族の力を必要とする場合においては面会、外出等の協力をお願いし共に支えていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族だけでなく、入居者の顔なじみの知人や友人の方々の面会をお願いすると共に地域の行事(お祭り、文化祭)へ参加を積極的に行っている。	入居者がグループホームに入居していることを近所に住んでいる住民が知って面会に来てくれたり、地域の行事に参加した時に馴染みの人と談笑したり、人との関わりをできるだけ多く持てるような機会創出に努めている。中には家族等の協力のもと、入居者が毎月自宅に戻って泊まることもあるため、グループホームとしては自宅に戻って必要と考えられる情報をその都度提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握する事で、職員が過剰に関わる事無く本人の素直な感情判断でお互いに支え合う事ができるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等にて退居された方でも本人、家族の要望があれば再入居に応じている又、入居者が死亡された場合葬儀に参列している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者との関わりの中で本人の希望、意向を汲みとりその実現に努めている。困難な場合は家族に相談し入居者本人が生活しやすくなるよう検討している。	入居前に事前調査に行き、本人家族より聞き取り調査を行っている。言葉を欲しない入居者も日常の様子をよく観察し、思いを感じ取るようにしている。申し送りノートを職員間で書き込み日々の支援に活かしている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に対する入居前の面談それぞれで利用されていた関係機関から情報提供を求め、入居生活の援助に活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の日々の記録や職員間の情報交換及び介護計画の活用により、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の担当職員が本人や家族の意向を基に介護計画を立案しスタッフ会議で発表を行い他の職員と検討し介護計画を完成させている。	3ヶ月に1回サービス計画実施状況一覧表を職員全員でチェックし、プランの評価をしている。次回の介護計画につなげ、細かな支援ができるよう工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や援助内容及びその結果を個別に記録しその他の情報については口頭での情報交換や申し送りノートを活用し職員間での情報を共有しながらケアの実践や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の希望に応じ買い物支援を行ったり定期的な床屋の依頼をしたり毎週移動式訪問販売車(パン屋)に来ていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事にはできるだけ参加し地域の方と交流ができるように支援行っている又近隣の中学校、高校の依頼に応じ生徒の課外活動の場を提供している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同一のかかりつけ医の為、毎月訪問診療を受けており状態に応じてスタッフも同行し外来受診している。	定期訪問診療の他に、必要な医療を受ける時は職員が通院を行っている。家族対応で受診した時は情報共有し医師・家族・職員が連携し体制をとり支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム在職の看護師が常に日々の入居者の状態把握を行い、随時他の職員との情報交換や指導に努めている。又協力医療機関との医療連携体制による週1回の看護師の問診も含め、入居者の健康管理に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的な訪問診療や外来受診に職員が同行し、かかりつけ医や他の病院職員との情報交換を行っており入院時も本人及び御家族の意向を尊重した上で密接に協議を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医療機関との医療連携体制の中で、重度化終末期対応指針を作成し、契約時、本人や御家族に看取りの支援体制について説明を行い同意を得ている。	主治医とのかかわりを中心とし、看護師や介護職員、家族とも連携を取りながらあらゆる情報を共有し、重度や看取りの時の支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急マニュアルを作成し対応できるようにしている。職員が普通救命講習を受講しており入居者の急変時に対応できるようにしている又、年2回消防訓練を実施しており事故発生等に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	防災マニュアル、自然災害時及び原子力災害時避難計画書を作成し災害時に備え備蓄品を確保している又、消防訓練(年2回)や災害時の避難訓練を行うと共に近隣の住民の方々へ協力依頼を行っている。	災害時の緊急の連絡網を作成しており、近所に住む職員がいち早く駆けつけられる体制を整えている。状況に応じた災害体制が整えられており 備蓄も皆が取りやすいところに置くなど工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家庭的な親しみのある言葉がけをするよう心掛けていますが常に相手の反応に注意を払い、気分を書さないように努めている。	入居時に個人情報にかかわる同意書をもっている。日中は入居者一人ひとりが自室やリビングで自由に過ごしている。思い思いにゆったり過ごせる雰囲気がある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思で自己決定できるような言葉掛けを行い意思表出が困難な方は表情の変化を見て対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の中で、食事や入浴等に関する大まかな決まりはあるが、その他の行動については個々の入居者の判断に委ね、希望があれば可能な限り配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装等職員が買い物支援を行ったり買い物ツアーの時に購入してもらっている。又家族に服装等の購入を依頼している。行事等の特別な日はお化粧を行っており、2ヶ月に1度美容室から来ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時や年1度嗜好調査を行い嫌いなメニューがある時は代替品を提供している。入居者の能力に応じて食材の下ごしらえや後片付け手伝っていただいている。	季節感のある食材を取り入れている。誕生会にはちらしずしをしたり皆でお祝いする場面もある。メニューに嫌いなものやアレルギーがあれば臨機応変に食材の変更を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事メニューでは、個々の好みや摂取能力に応じ、代替の献立や、お粥、キザミ食等の調理方法を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けや介助を行い口腔内の清潔保持に努めている。又、定期的に歯科往診を依頼しており入居者の摂取能力の維持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿便意ある方、ない方、その方に応じて個別にトイレ誘導しトイレでの排泄を促している。	昼間はトイレにできるだけ誘導している。一人ひとりの排せつ状況を把握し、紙パンツであっても排せつが自力で行える環境を整えている。	排泄の自立支援の部分で、排泄の自立を促すため排尿についても排泄チェック表に記入する習慣をつけ、回数確認やパターンの把握から更なる自立支援を期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維や水分を多く摂るようにしている。又、レクレーション時に体操をするよう努めている。必要時には主治医処方の下剤使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週4回お風呂を沸かしてできるだけ個々の希望に沿えるようにしている又入浴拒否がある方は入浴する順番を替えたり介護職員を代えたりタイミングをみて再度声掛けを行っている。	週4回は入浴日を決めて入浴支援を行っている。シャワーはいつでも利用ができるようにしている。入浴剤や入居者の嗜好に合わせてシャンプーリンスも利用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を基に自由に過ごしてもらっている。不穏がある方は職員と一緒にお茶をしたり話をして安心して眠れるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関、薬局からの薬に関する指示や説明書について個別に綴じ誰でも確認できるようにしている。配薬、服薬は名前と日付を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者個々の力量に応じて食材の下ごしらえや洗濯物干し衣類たたみ、食後の片付け等の手伝いをお願いしている。又買い物ツアーやドライブに出かけ気分転換できるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望があれば職員が同行し買い物支援を行っている。又地域の方や家族からの情報を受け地元の催し物等へ積極的に参加するよう努めている。	近所のスーパーに買い物など日ごろから一緒に出掛けている。車いすの方でも近所を散歩しできるだけ外気に触れる機会を設けている。日常生活の中で行きたい所の希望を聞き出かけるよう支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物希望があれば職員が同行し出かけている又定期的に買い物ツアーを計画し近くのスーパーへ出かけ買い物支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話をして直接話してもらっている本人の希望で携帯電話を所持している方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには天窗により自然光を取り入れており玄関や畳の間、応接間には一年中生花を飾っている。又壁面には季節に応じて行事の写真や入居者、職員の作品を掲示している。	季節の装飾を職員、入居者と共に飾りつけをしたり、季節の花を活けたりしている。リビングのほかに自然な光を取りいれてたテラスがあり、その場で一緒にお茶を飲むなどゆったり過ごせる環境が整っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テラスや応接間より景色を眺めたり外の椅子に座りひなたぼっこしたりソファーや畳の間で横になって憩う様子がみられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅等で使い慣れた物や大切にしていた物等を持ち込んでもらい使用してもらっている。	自宅で利用していたなじみの家具を持ち込んだり、快適に過ごせるよう匂いにも気を付け、空気清浄機や消臭剤・芳香剤なども置き、快適に過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーで手すりを多く設置しており1人でも各場所へ容易に移動できるようにしている車椅子自走できる方については見守りをしている。		